

1. 調査報告概要表

【認知症対応型共同生活介護用】

作成日 平成20年6月25日

【評価実施概要】

事業所番号	2773800970
法人名	社会福祉法人 ふくふく会
事業所名	グループホームみやび
所在地	羽曳野市西浦2丁目1844-1 (電話) 072-950-0382
評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 20年 6月 13日

【情報提供票より】(平成 20年 5月 20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 8月 1日		
ユニット数	3ユニット	利用定員数計	27人
職員数	28人	常勤	21人, 非常勤 7人, 常勤換算 25.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	4階建ての	2階 ~	4階部分

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000円	その他の経費(月額)	40,000円	
敷金	有 (円) <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="checkbox"/> (500,000円)	有りの場合 償却の有無	有 / <input checked="" type="checkbox"/> 無	
食材料費	朝食	250円	昼食	400円
	夕食	450円	おやつ	100円
	または1日当たり 1,200円			

(4) 利用者の概要 (平成 20年 5月 20日現在)

利用者人数	27名	男性	5名	女性	22名
要介護1	4名	要介護2	4名		
要介護3	10名	要介護4	5名		
要介護5	4名	要支援2	0名		
年齢	平均 84歳	最低	74歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	城山病院、松島・林診療所、青山病院、いぬい歯科
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域の社会福祉法人が運営するグループホームで、デイサービス、ホームヘルパーステーション、ケアプランセンターを併設しています。「安心・安全・安堵をモットーに私たちは常に向上心を持って心の通う運営を目指します」の法人理念をもとに、ユニット毎で「その人らしい生活作りに励み」「ひとりひとり役割をもてるようにし」「安心して過ごせる空間の提供をします」等を盛り込んだそれぞれの理念を決め、ホームの役目として利用者・地域・スタッフの三者の「笑顔」の輪を広げていくことを目指し、利用者が安心してその人らしい生活を続けられるよう家族、職員、地域住民と共に支えています。職員は利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向に沿うよう支援し、やさしい雰囲気ですぐに、利用者は生き生きと生活しています。協力医院の医師と職員として配置した看護師との医療連携により利用者に必要な医療と看護を提供しています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連科目: 外部4)
	前回の外部評価で示された事項について、改善が進んでいます。全体会議を定例化し各ユニットの申し送り書式を統一しています。またロックされていたエレベーターの操作方法を表示し、利用者が自由に外出できるようになりました。職員の研修は年間計画をたてて実施するようになってきました。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	自己評価については、ユニットリーダーが職員と議論しながら原案を作成しています。管理者、職員も参加する会議で完成させ、認識の共有化を図り、サービスの具体的な改善に取り組もうとしています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	運営推進会議は羽曳野市職員、地域包括支援センター職員、介護相談員、地域の住民代表、知見者、家族、利用者の参加のもとで、おおむね2ヶ月毎に開催しています。会議ではホームの運営状況、利用者の生活ぶり、ボランティアとのクラブ活動の状況、グループや個別の外出状況、ヒヤリハットや事故の状況等について説明して意見を交わし、地域との相互の理解を深めています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	家族との面会時には、利用者の生活ぶりや連絡事項を伝え、利用者の医療や安全に関わる事項については、必要の都度電話で家族に報告しています。月に1回、写真を中心に行事の実施状況と行事予定を載せた便りをユニット毎に発行し、家族に送付しています。家族とは面会時だけでなく、ケアプラン作成時、年2回の家族会の時にも話し合い、家族が思いや希望、不満を表せるように対応しています。意見箱も設置して、家族が意見を表せる機会を設けています。今後、介護相談員と家族との意見交換を行う場を設ける予定です。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
重点項目④	ホームの夏祭りやバザー、地域の神社祭りで地域の住民と一緒に楽しんでいます。地域の保育園を訪問したり、家族介護者教室を主催したり、行事のときに介護相談コーナーを設けたり、町の溝掃除に参加したりして地域との交流に努めています。歌と楽器演奏、踊り、リズム体操、定期的な写真の提供、散髪等のボランティアも受け入れています。

2. 調 査 報 告 書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「安心・安全・安堵をモットーに私たちは常に向上心を持って心の通う運営を目指します」という法人理念をもとに、ユニット毎にそれぞれ「その人らしい生活作りに励み」「ひとりひとり役割をもてるようにし」「安心して過ごせる空間の提供をします」等を盛り込んだ理念を決め、ホームの役目として利用者・地域・スタッフの三者の「笑顔」の輪を広げていくことを目指し、利用者が安心してその人らしい生活を続けられるよう家族、職員、地域住民と共に支えています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を明文化し掲示しています。月例の全体会議、フロアミーティング、OJT、毎日の業務等を通じて理念を共有し、理念に沿った介護サービスの実践に取り組んでいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	ホームの夏祭りやバザー、地域の神社祭りで地域の住民と一緒に楽しんでいます。地域の保育園を訪問したり、地域の方たちを対象に家族介護者教室を主催したり、行事のときに介護相談コーナーを設けたり、町の溝掃除に参加したりして地域との交流に努めています。歌と楽器演奏、踊り、リズム体操、定期的な写真の提供、散髪等のボランティアも受け入れています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価で示された事項について、改善が進んでいます。全体会議を定例化し、各ユニットの申し送り書式を統一、またロックされていたエレベーターの操作方法を表示したり、職員研修を年間計画で実施したりするようになってきました。自己評価については、ユニットリーダーが職員と議論をしながら原案を作成し管理者、職員も参加する会議を開催して完成させ、認識の共有化を図り、サービスの具体的な改善に取り組もうとしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は羽曳野市職員、地域包括支援センター職員、介護相談員、地域の住民代表、知見者、家族、利用者の参加のもとで、おおむね2ヶ月毎に開催しています。会議ではホームの運営状況、利用者の生活ぶり、ボランティアと一緒にクラブ活動の状況、グループや個別の外出状況、ヒヤリハットや事故の状況等について説明して意見を交わし、地域との相互の理解を深めています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	羽曳野市の担当職員や地域包括支援センター職員とは常に相談や情報交換を行ってサービスの向上に取り組んでいます。市の協力を得てホームが主催し、地域の方を対象とした家族介護教室や認知症介護予防教室を開催しています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族との面会時には、利用者の生活ぶりや連絡事項を伝え、利用者の医療や安全に関わる事項については、必要の都度電話で家族に報告しています。月に1回、写真を中心に行事の実施状況と行事予定を載せた便りをユニット毎に発行し家族に送付しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは面会時だけでなく、ケアプラン作成時や年2回の家族会の時にも話し合い、家族が思いや希望、不満を現せるように対応しています。意見箱も設置して、家族が意見を表せる機会を設けています。今後介護相談員と家族との意見交換をする場を設ける予定です。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者やユニットリーダー、職員の業務に取り組む意欲は高く、この1年間職員の退職も少なくなり、利用者の生活振りにいい結果をもたらし、家族にも好印象を与えています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の育成教育に熱心で、OJTを通じて計画的に外部研修や内部研修に参加ができています。職員のステップアップを目指し資格を取得する為の研修支援にも積極的です。新人職員の採用時研修も計画的に実施されています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大阪認知症高齢者グループホーム協議会に参加して交流するとともに、羽曳野市のグループホーム部会を通じて、グループホーム間の相互研修を実施したり、計画作成者会議を月1回実施したりするなどして交流し、サービス向上に取り組んでいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員が家庭訪問を行ったり、利用者や家族がホームに来訪し体験入居や短期利用したりして、家族や本人の不安を取り除き、安心して入居しサービスを受けられるように取り組んでいます。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学び支えあう関係を築いている	職員は利用者と共に過ごし、学び支えあう関係を目指した支援を行っています。ハーモニカ演奏や大工仕事が得意な方、裁縫や手芸の得意な方、卵焼き作りが得意な方等、利用者の得意分野で、家事や行事の機会を通して学び支えあう関係を作っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	現在、毎日の生活を通じて得られた利用者の生活歴や意向・思いに関する気付きを新様式の「生活歴シート」に記録・整理中です。ホームの職員2人が付き添い、長年の思いだった実家の墓参りを家族の協力のもとに実現できた利用者がいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の現在の暮らしや願い、心身の状況を把握するとともに、医師や看護師の意見、家族の意向を反映させ、介護計画を作成しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的には3ヶ月毎に、また状態の変化がある時はその都度見直しを行っています。介護計画に連動した援助項目毎の毎日の実施記録と職員の援助内容変更の提案をもとに、月3回のフロアミーティング時に適宜ケアカンファレンスを実施し、介護計画の見直しにつなげています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医院の医師と、職員として配置している看護師、併設デイサービスの看護師との医療連携により、必要な医療と看護を提供しています。ホームでは必要の都度通院介助も行っています。地域に対して家族介護者教室を開催し、地域のボランティアの支援も受けています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られた、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院の精神科と内科の医師による往診医療を受けていますが、診療科目によっては入居以前の、かかりつけ医療機関から引き続き医療を受けています。協力病院と連携し、夜間や急変時の対応についての体制も整備されています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	過去に看取りを行った利用者がいます。入居時に、ホームで重度化した時や看取り実施時の指針を家族に説明し、同意を得ています。状況の変化とともに、利用者と家族、医師、ホームとの話し合いを行い意向の確認を続けていく予定です。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重し、職員の言葉かけや態度は明るく丁寧で、やさしい雰囲気です。職員は採用時に個人情報の取り扱いについて法人と書面を取り交わしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活リズムに配慮し、利用者のペースでゆったりと暮らせるよう支えています。職員が利用者を制止したり、急かしたりする言葉はなく柔軟な対応をしています。起床時間や朝食の時間、入浴時間についても柔軟に対応しています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	通常は併設の厨房から調理済みの食材を取り寄せていますが、毎朝食と週3回程度の食事については、フロア毎に利用者の意見をいれた献立表にしたがって職員が調理しています。買物から、食事準備、盛り付け、後片付け等の一連の作業に利用者も得意な分野で積極的に参加しています。職員は同じものを食べながら、利用者の食べ方の混乱や食べこぼしに対するサポートをさりげなく行い、会話をしながら楽しくなごやかな雰囲気を作っています。寿司店での外食の機会もあります。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望があれば毎日でも入浴ができ、平均して週3回程度の入浴ができています。毎日入浴している利用者もいます。併設デイサービスの大きい浴場や銭湯、日帰り温泉での入浴を楽しむこともあります。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は一日の生活の中で家事にそれぞれの役割を見つけ、分担し合いながら張り合いのある生活を送っています。利用者が共同で季節の花などの自然や風物、行事を表現する大型の作品を作ったり、クラブ活動で書道や茶道をしたり、大工仕事をしたり、縫い物をしたり、ハーモニカ演奏をしたり、ベランダでの園芸等を楽しんでいます。グループや利用者個別での外出も大いに楽しんでいます。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な周辺の散歩や買い物、喫茶店でのモーニングや外食を楽しみ、季節の花や風物を楽しむ外出もしています。利用者の希望を聞き、普段は行けないところへのユニット毎やグループ別、個別での外出の機会も多くあります。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	前回の示された事項を受けてエレベーターのロックを利用者が自ら解除できるよう、操作方法を操作盤の横に表示するようにしました。一部の利用者が操作をして散歩に外出するようになりました。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害マニュアルを作成しています。避難訓練については、年に2回行っており、そのうち1回は消防署の協力のもとで行っています。非常・災害時の食料品と水の備蓄については実施していません。	○	非常・災害時のための食料品と水の備蓄をすることが求められます。また備蓄については「非常用備蓄マニュアル」等の取り決めを作成してはいかがでしょうか。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者全員の一日の食事摂取量と水分管理の必要な利用者の水分摂取量を把握し記録しています。栄養バランスについては、併設の厨房の管理栄養士のアドバイスを受けています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各エレベーターホールにはユニット名を表示した個性的な手作り暖簾があり、絵画や花が飾られ、ベンチもあって訪ねやすい雰囲気になっています。洗濯物干し場や季節の花が植えられているベランダに面したリビング兼ダイニングルームは、見通しのきいた明るく、開放的でゆったりとしたスペースとなっており、畳のあるコーナーやソファもあり寛げる場所になっています。壁に貼られた季節感のある大型作品や行事写真、季節の生け花、観葉植物、ピアノ、掃除道具等もあり、生活感がある家庭的な空間になっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入口に手作りの暖簾のかかっている各居室には、利用者が和ダンス、整理ダンス、ソファ一、椅子、鏡台、テレビ、人形、花、位牌、遺影、自作の油絵や書道作品、手芸作品、家族の写真等使い慣れた馴染みのある物を持ち込み、家族の思いも感じられ、個性的で落ち着き安心して生活できる空間になっています。		